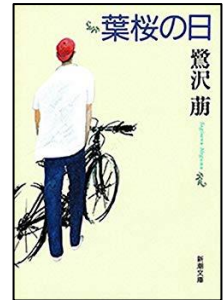


# 140字の読書界

## 地歴科有馬おすすめの「文庫棚の“さ行”に並んでいた」本

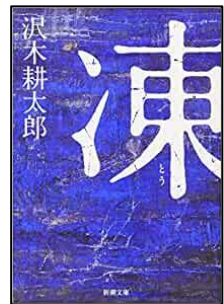
- 1** 書名：葉桜の日  
著者：鷺沢 萌（さぎさわ めぐむ）  
発行：新潮文庫

女子大生作家としてデビューした著者の短編小説集。芥川賞候補になった表題作ともう一遍を収録。自分探しの青春小説とって間違いないと思いますが、大学生の時に読んだ本なので、詳しい内容は覚えていません。「よい小説に出会った」と感動したことは、はっきり覚えています。私も読み返してみよう。



- 2** 書名：凍  
著者：沢木耕太郎（さわき こうたろう）  
発行：新潮文庫

日本を代表するノンフィクション作家の手にかかれば、奇跡の登山行をここまでリアルに伝えられるのかと驚愕した本。最強クライマー山野井泰史が、夫婦でヒマラヤ難峰に挑み、も・じ・ど・お・りの絶望的状况から生還する記録。身も心も凍るようなスリルを味わえること、間違いなし。寒いうちに読んで。



- 3** 書名：小説 秒速5センチメートル  
著者：新海 誠（しんかい まこと）  
発行：角川文庫

三話からなる小説の第二話「コスモナウト」は、ロケット基地のある種子島が舞台。この小説およびアニメ映画には、実在する景色が取り入れられているのですが、その小さな町で小学生時代を過ごした私には懐かしすぎる場面ばかり。聖地巡礼は地理学の研究テーマにもなっていますが、いつか必ず再訪したい。



- 4** 書名：太郎物語 —大学編—  
著者：曾野綾子（その あやこ）  
発行：新潮文庫

大学で出会い、もっとも面白そうと感じた学問は文化人類学でした。この小説の主人公は、東京の名門大学に補欠合格したけど、人類学を学べる地方の私立大学を選びます。偏見や世間体にまみれて苦しんでいた大学時代の有馬青年は、この本を繰り返し読んで、楽になったのを覚えています。高校編もあります。

